三好議員（自民会議）

平成26年12月11日
教育長答弁実録
（教育委員会）

（問）地域の歴史的遺産の活用について

福山市駅家町には，古墳時代後期の前方後円墳としては県内最大規模の二子塚古墳があり，発掘調査の現地説明会などには多くの古墳ファンが訪れ，また地域でも町おこしの目玉として，様々なイベントが行われている。

代表的な古墳や史跡を巡る「古墳ロード」も整備されつつあり，芦田町にある「別所砂留」と呼ばれる江戸時代の砂防ダムも，見学に訪れる人が増えてきた。

脚光を浴びている歴史的遺産がある一方，松永にあった「日本はきもの博物館」のように，来館者が落ち込み一旦閉館した施設があることは，残念に思えてならない。

来年の春，無料区間がほとんどを占める尾道松江線が開通し，三次市の歴史民俗資料館と福山市の歴史博物館との距離が近くなるため，これを機会に，学校教育はもちろん，生涯学習の観点からも，県内に点在する歴史的遺産の魅力を情報発信し，文化財に対する理解を深める取組を積極的に進めるべきだと思うが，今後の取組について教育長に伺う。

（答）

県民の皆様が県内各地の文化遺産や伝統文化に接することにより，郷土広島の歴史や伝統・文化に対する理解や教養を深めることは重要と考えており，教育委員会といたしましては，所管する歴史民俗資料館及び歴史博物館の展示活動を通じて，こうした機会を提供しております。

来年度は，尾道松江線の開通に合わせて「尾道松江線発掘物語」と題した展示会を歴史民俗資料館で予定するとともに，重要文化財等を多数所蔵している尾道市浄土寺の展示会を，歴史博物館と歴史民俗資料館の巡回で開催する予定としております。

また，福山市胎蔵寺（ふくやましたいぞうじ）の収蔵品展や，本年８月に国の重要文化財に指定されました江戸時代後期の漢学者，菅茶山（かんちゃざん）関係資料の展示などを歴史博物館において計画しております。

今後とも，両館の資料を相互に活用することをはじめ，例えば，二子塚（ふたごづか）古墳

のような地域の文化財の公開が促進されるよう市町や関係団体とも積極的に連携するなど，県民の皆様が，県内各地の文化遺産に接する機会を充実させてまいります。